

# FuzzyScan Family

## クイックスタートガイド

- Bluetooth Version -

# はじめに

PC Worth 社は、特定の用途のための商品性や適合性を保証しないことを含め、この資料に関していかなる保証も致しません。また、PC Worth 社は、この資料の提供、性能、使用に関して、この中に含まれた誤りや付带的、必然的な損害に対して責を負いません。

この資料は、著作権によって保護される知的財産情報を含んでいます。すべての権利を保有されています。この資料の一部であっても、PC Worth 社の書面による事前の許可がない限り、如何なる書式、電子情報検索システム、あるいは別の方法でも、写真複写、再編集、如何なる言語への翻訳をすることもできません。

© Copyright Cino Group


© Copyright PC Worth Int'l Co., Ltd.

## 保証


PC Worth 社は、正常で適切な条件のもとで操作されている製品あれば、その製品の製造と材料における欠陥に対して出荷日から保証します。その保証条項と保証期間は、異なった保証プログラムにより提供されます。その保証は、次の項目の製品に対しては適用されません。(i) 間違った使用。(ii) 偶然または不注意による破損。(iii) 購入者または他の当事者による改造または変更。(iv) 非公式な代理店による修理または改造。(v) 操作または環境のパラメータの仕様を超える操作または格納。(vi) PC Worth 社によって提供されていないソフトウェア、アクセサリ、部品の使用。(vii) 稲妻や電力の変動(これに限定しないが)のような PC Worth 社の制御不能な環境による障害。

アイテックスは、障害のある製品が上記と同じように正常に扱われていた場合、お客様が購入された日から1年間に限り無償で修理または交換いたします。それ以降は、有償で修理いたします。


## 取得規格


 FCC part 15B, FCC part 15C

 MIC T401

 EN55022, EN55024  
EN301 489-1 & 489-17, EN300 328  
EN61000-3-2, EN61000-3-3, EN60950-1

 AS/NZS CISPR 22:2009 Class B

 Clause 2, Article 58-2 of Radio Waves Act.

 CNS13438, CNS14336

 V-3/2011.04, TECHNICAL REQUIREMENTS,  
Class B ITE

 LP0002

**LED 安全規格** IEC62471 Exempt group

**レーザー安全規格** IEC60825-1 Class 1

## マニュアルの対応機器とバージョンについて

本マニュアルは、Ver. 1.00.03以降のITR-670 BTに対応しております。ご使用の機器のバージョンを調べるには、「システム情報」のコマンド(p.16)を読み取ってください。

# FuzzyScan について

Cino FuzzyScan Bluetooth コードレス イメージスキャナをご利用いただき、ありがとうございます。最先端の FuzzyScan 画像処理テクノロジーと Bluetooth ワイヤレステクノロジーの組み合わせにより、すぐれた読み取り性能を提供するだけでなく、便利さと可動性の自由を実現します。お客様の生産性を活かす広い範囲の市場アプリケーションに理想的な製品です。

このドキュメントは、インストールや動作について簡単に説明するものです。完全なドキュメントは、ウェブサイトより入手することができます。

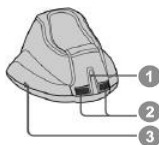
<http://www.cino.com.tw>

## ITR-670BT各部の詳細



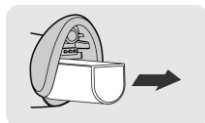
- ① リンク表示
- ② ステータス表示
- ③ ビープ音
- ④ スキャン ウィンドウ
- ⑤ トリガ スイッチ
- ⑥ バッテリー 挿入口
- ⑦ エンド キャップ

## HB211x スマート クレードル



- ① センター表示
- ② サイド表示
- ③ ページング/リセットボタン
- ④ USB パスパワースイッチ
- ⑤ ホスト接続ポート
- ⑥ DC パワージャック

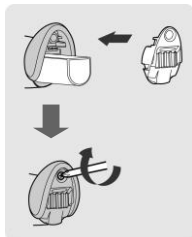
## スキャナ本体のリセットについて



何らかの原因でスキャナの電源を強制的に切る必要がある場合、スキャナのバッテリーパックを取り外し、強制的に電源を切ってください。その後、再びバッテリーパックをスキャナに挿入すると、スキャナは再起動されます。

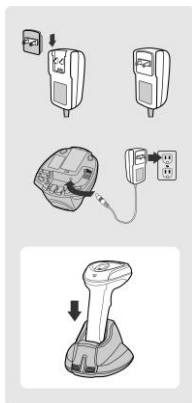
## ご使用前の準備

### バッテリーの取り付け




- ① バッテリーパックのバッテリー接触部が、バッテリー挿入口の中の充電接触部に面していることを確認してください。
- ② エンドキャップを締める前に、クリック音が聞こえるまでバッテリーパックをバッテリー挿入口に差し込んでください。バッテリーパックに充電が残っていれば、正しく取り付けられた際に、スキャナは 4 回ピープ音を鳴らします。
- ③ 付属しているネジでエンドキャップを締めます。

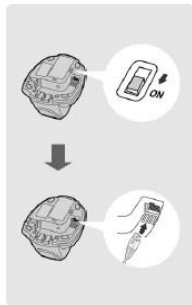
### バッテリーの充電



- ① 使用する形状に合った適切なプラグを選び、ロックされるまで電源アダプターの差し込み口に差し込んでください。その後、AC 電源プラグを適切な AC ソケットに差し込んでください。
- ② 電源供給ユニットの DC 電源コードを、クレードルの DC 電源ジャックに差し込んでください。スマート クレードルはピープ音を発し、センター表示が青色に 1 回点滅します。充電クレードルを使用する場合は、充電クレードルの電源表示が青色に点灯している事を確認してください。
- ③ スキャナをクレードルに置いてください。バッテリーがフル充電でない時は、スキャナのステータス表示が赤色に点灯します。バッテリーがフル充電の時は、スキャナのステータス表示が緑色に点灯します。

 新しいバッテリーパックを初めて使用する場合は、事前に 8 時間充電してください。

### USB バスパワーを使う



- ① ホスト機器が **USB 3.0** に対応している場合、外部電源を利用せずに USB バスパワーによってバッテリーの充電と通常動作の両方を行うことができます。
- ② ホスト機器が **USB 2.0** のみに対応している場合、USB 2.0 による電源供給はバッテリーの充電と通常動作を同時に行うには不十分なため、外部電源を使用することを推奨します。
- ③ USB バスパワーを利用するには、USB バスパワースイッチを「ON」にスライドし、クレードルとホスト機器を USB ケーブルで接続してください。

## 無線リンクモードの選択

FuzzyScan Bluetooth イメージスキャナは、あらゆるホスト機器と通信するために、いくつかの無線リンクモードを提供しています。Bluetooth が使用可能なホスト機器がない場合は、スマートクレードルと PAIR モード(1 対 1 の接続)または PICO モード(1 対複数の接続)で接続することで、Bluetooth が使用できない既存のデバイスを**プラグアンドプレイ**でコードレスへ移行できます。さらに、SPP モードと HID モードにより、Bluetooth が使用できるホスト機器との接続も可能です。

無線リンクが切れた場合、スキャナは無線範囲内に戻って来た際に自動的に無線リンクを再接続することができます。ただし、SPP スレーブモードではこの機能は働きませんので注意してください。もし、無線リンクモードを変更したい場合は、スキャナをアンインストール状態に戻すために、“Uninstall”コマンドをスキャンしてください。

### PAIR モード

既存のシステムで Bluetooth 機器が利用できない場合、このモードは最も簡単なプラグアンドプレイソリューションです。このモードでは、1 つのスマートクレードルに対して、1 つのスキャナとのみ接続します。スマートクレードルは、スキャナに Bluetooth 無線リンクを提供するだけでなく、USB HID、USB COM、PS/2 (DOS/V)キーボードウェッジ、および RS232 シリアルを含むレガシーケーブルインタフェースをホスト機器に提供します。

### PICO モード

複数接続の必要がある場合、1つのスマートクレードルに対して、最高で 7 台までのスキャナが同時に接続できます。ペアリングされたすべてのスキャナとスマートクレードルのペアリングを解除するには、スマートクレードルの“ページング/リセットボタン”を 5 秒以上押し続けます。また、一部のスキャナとのペアリングを解除する場合は、ペアリングされているスキャナで1つずつ“Uninstall”コマンドをスキャンしてください。

### HID モード

最も役立つ HID サービスを使うことで、スキャナを **Bluetooth キーボード**のように動作させることができます。このモードでは、スキャナはリモートホスト機器の無線接続要求によって検出可能となります。セキュリティ目的のため、Bluetooth 接続を確立する際に PIN コードを入力するように要求される場合があります。

### SPP マスタ/スレーブ モード

標準の SPP サービスを使うことで、スキャナを **Bluetooth シリアル入力機器**として動作させることができます。SPP マスタモードにおいて、スキャナはリモートのスレーブ機器に無線の接続要求を開始します。SPP スレーブモードでは、スキャナはリモートのマスタ機器の無線接続要求によって検出可能となります。

## 注意 各モード設定がうまくいかない時には



まれに何らかの原因により接続設定および各種設定がうまくいかない場合があります。その場合には、クレードルのリセットボタンを **5 秒以上押し**、クレードルをリセットしてください。

ページング/リセット ボタン

## PAIR モードで使用する

- ① バッテリーがフル充電されていることを確認してください。詳しくは、「**ご使用前の準備**」をお読みください。
- ② ご使用になるインタフェースケーブルを選び、スマートクレードルのホスト接続ポートに差し込んでホスト機器と接続してください。



- ③ ホスト機器の電源を入れます。
- ④ スキャナがスマートクレードルと一緒に出荷されている場合、スキャナはあらかじめペアリングされておりますので、ご注意ください。その場合、スキャナのリンク表示が 2.5 秒に 1 回青色に点滅し、スマートクレードルのセンター表示が青色に点灯していることを確認してください。もし、スキャナとスマートクレードルの表示が、**赤色と緑色に交互に点滅**（「**アンインストール**」状態）しているのであれば、スキャナはペアリングされていません。スキャナとスマートクレードルの接続を確立するために、ステップ⑤を行ってください。
- ⑤ “PAIR Mode” コマンドをスキャンしてください。スキャナのステータス表示がすぐに赤色に点灯します。



Uninstall



PAIR Mode

スキャナをスマートクレードルに置くと、ペアリングプロセスが作動することを示す短いピーブ音が 1 回鳴ります。スキャナはペアリングプロセスを行っている間、短いクリック音を継続的に発し、リンク表示は青色に素早く点滅します。高音のピーブ音が 4 回鳴ったら、ペアリングプロセスは完了です。スキャナのリンク表示が **2.5 秒に 1 回青色に点滅**し、スマートクレードルのセンター表示が**青色に点灯**していることを確認してください。

スキャナがペアリングプロセスに失敗したか、または 20 秒以内にスマートクレードルに置かれなければ、ペアリングの失敗を示す “Di-do Di-do” というピーブ音が 2 回鳴り、スキャナは自動的にアンインストール状態に戻ります。

- ⑥ 該当する”ホスト接続 クイック設定”コマンドをスキャンして、インストールを完了してください。



スマートクレードルのホスト接続の初期設定は、「**USB HID**」に設定されていません。ホスト接続を「**USB COM**」にしたい場合は、スキャナを使用する前に「USB virtual COM software driver」をホストにインストールする必要があります。CINO のウェブサイトから、ソフトウェアドライバをダウンロードしてください。

## PICO モードで使用する

- ① バッテリーがフル充電されていることを確認し、ご使用になるインタフェースケーブルを選び、スマートクレードルのホスト接続ポートに差し込んでホスト機器と接続してください。



- ② ホスト機器の電源を入れます。
- ③ スマートクレードルのサイド表示が、**赤色と緑色に交互に点滅**(「アンインストール」状態)していることを確認してください。スマートクレードルが他のスキャナとペアリングされている場合、すべてのスキャナとのペアリングを解除するために、“ページング/リセットボタン”を**5 秒以上**押し続けてください。すると、スマートクレードルは自動的にアンインストール状態に戻ります。
- ④ スマートクレードルとペアリングしたいスキャナを準備してください。それぞれのスキャナのステータス表示が、**赤色と緑色に交互に点滅**(「アンインストール」状態)していることを確認してください。スキャナがアンインストール状態でない場合、スキャナのペアリングを解除するために “Uninstall” コマンドをスキャンしてください。その後、“PICO Mode” コマンドをスキャンすると、スキャナのステータス表示が赤色に点灯します。



Uninstall



PICO Mode

スキャナをスマートクレードルに置くと、ペアリングプロセスが作動することを示す短いピープ音が 1 回鳴ります。スキャナはペアリングプロセスを行っている間、短いクリック音を継続的に発し、リンク表示は青色に素早く点滅します。高音のピープ音が 4 回鳴ったら、ペアリングプロセスは完了です。スキャナのリンク表示が **2.5 秒に 1 回青色に点滅**し、スマートクレードルのセンター表示が**青色に点灯**し、サイド表示が**緑色に点灯**していることを確認してください。

スキャナがペアリングプロセスに失敗したか、または 20 秒以内にスマートクレードルに置かれなければ、ペアリングの失敗を示す “Di-do Di-do” というピープ音が 2 回鳴り、スキャナは自動的にアンインストール状態に戻ります。

- ⑤ 該当する”ホスト接続 クイック設定”コマンド(p.13)をスキャンすることで、インストールが完了します。他のスキャナをスマートクレードルとペアリングするには、同じ手順を再度行ってください。



利用者への利便性のため、スマートクレードルは、それぞれのスキャナに自動で ID 番号を割り当てます。一度、すべてのペアリングプロセスが完了しましたら、“システム情報”コマンド(p.16)をスキャンして、それぞれのスキャナに割り当てられた ID 番号を確認してみてください。

## HID モードで使用する

- ① バッテリーがフル充電されていることを確認してください。無線範囲内のスキャナの電源を入れ、ステータス表示が**赤色と緑色に交互に点滅**(「アンインストール」状態)していることを確認してください。スキャナがアンインストール状態でない場合、最初に「Uninstall」コマンドをスキャンしてください。



Uninstall

リモートホストに最新の Bluetooth ドライバがインストールされているか、あるいはホストが iOS、Android デバイスの場合、「HID Mode」をスキャンして素早く接続することをお勧めします。必要ならば「HID Mode with Passkey」をスキャンしてより安全な接続を確立してください。HID モードの接続で頻繁に問題が発生するのであれば、代わりに「HID Legacy Mode」を試してください。



HID Legacy Mode



HID Mode



HID Mode with Passkey

上記のコマンドの中から 1 つをスキャンすると、スキャナのリンク表示は検索プロセスの間、2 秒につき 3 回青色に点滅します。利用可能な Bluetooth デバイスを検出するために、ホストの Bluetooth デバイス検出プロセスを実行し、「F(L/A)xxxBT-xxxx」を選択してください。

- ② 「HID Mode」をスキャンした場合はステップ ⑤ に進んでください。
- ③ 「HID Mode with Passkey」をスキャンした場合、リモートホスト機器からパスキー(PIN コード)の入力を要求されます。「オプションコード」(p.17)を参照して、パスキー(PIN コード)を入力してください。「FIN (Finish)」をスキャンすると入力を完了します。入力が完了したらステップ ⑤ に進んでください。
- ④ 「HID Legacy Mode」をスキャンした場合、スキャナからパスキー(PIN コード)の入力を要求されることがあります。「00000000」(デフォルト設定)と入力し、「Keyboard on F(L/A)xxxBT-xxxx」を確認してください。スキャナとリモートホスト機器の間の接続を確立するために、この HID デバイスをダブルクリックしてください。
- ⑤ 接続が確立されたことを示すために、スキャナは高音のビープ音を 4 回鳴らします。同時に、スキャナが無線接続状態にあることを示すために、スキャナのリンク表示が 2.5 秒に 1 回青色に点滅するようになります。

上記のコマンドをスキャンした後、1 分以内にホスト機器に接続されなかった場合、スキャナは自動的にスリープ状態になりますのでご注意ください。接続を続けるにはトリガスイッチを押してスリープ状態を解除してください。



接続手順はリモートホスト機器、オペレーティングシステム、および Bluetooth ドライバの違いによって異なります。必要なサポートを得るには技術者に相談してください。より詳細な情報は、CINO のウェブサイトを参照してください。



# SPP モードで使用する

## SPP マスタ接続の確立

- ① バッテリーがフル充電されていることを確認してください。リモートホスト機器の **MAC アドレス**を確認するために、“Bluetooth Advanced Setting”にある“**Hardware**” フォルダを参照してください。そして、ステップ④で使用するリモートホスト機器の MAC アドレスの 12 文字の Code 128 バーコードを準備してください。あるいはオプションコードを 12 個スキャンすることで MAC アドレスの入力もできます。
- ② スキャナを接続しているリモートホスト機器の仮想 COM ポートが使用可能であることを確認してください。もし使用可能でなければ、“Bluetooth Advanced Setting”の“**Local Services**”フォルダを参照してください。“**Add Serial Services**”をクリックして、さらに Bluetooth COM ポートを追加してください。
- ③ 無線範囲内のスキャナの電源を入れ、スキャナのステータス表示が**赤色と緑色に交互に点滅**(「アンインストール」状態)していることを確認してください。スキャナがアンインストール状態でない場合、最初に“Uninstall”コマンドをスキャンしてください。その後“SPP Master Mode”コマンドをスキャンすると、スキャナのステータス表示が赤色に点滅します。



Uninstall



SPP Master Mode

- ④ ステップ①で準備した 12 文字の MAC アドレスバーコードをスキャンしてください。あるいは、オプションコードを 12 個スキャンし、“FIN”コマンドをスキャンして入力を確定させてください。スキャナは短いクリック音を継続的に発し、無線接続プロセスを行っている間、スキャナのリンク表示は青色に素早く点滅します。もし、セキュリティ接続のためにパスキー(PIN コード)を要求された場合、“00000000”(デフォルト設定)と入力してください。
- ⑤ 接続が確立されたことを示すために、スキャナは高音のビーブ音を 4 回鳴らします。同時に、スキャナが無線接続状態にあることを示すために、スキャナのリンク表示が 2.5 秒に 1 回青色に点滅するようになります。

スキャナが 30 秒以内にホスト機器と接続できなかった場合、リンク表示が 2 秒につき 3 回青色に点滅しますのでご注意ください。しかし、スキャナはスリープする前に、さらに 30 秒間ホスト機器を探し続けます。その間に、スキャナを「アンインストール」状態に戻すために、“Uninstall”コマンドをスキャンする事ができます。すでにスキャナがスリープしている場合、インストールを続行するにはトリガスイッチを押してスキャナのスリープ状態を解除してください。



上記の手順は一般的な Windows 環境におけるものです。接続手順はリモートホスト機器、オペレーティングシステム、Bluetooth ドライバによって異なるおそれがあります。接続手順の中で何か問題が発生した場合、必要なサポートを得るために技術者に相談してください。より詳細な情報は CINO のウェブサイトを参照してください。

## SPP スレーブ接続の確立

- ① バッテリーがフル充電されていることを確認してください。また、スキャナを接続するリモートホスト機器の仮想 COM ポートが使用可能であることを確認してください。もし使用可能でなければ、“Bluetooth Advanced Setting”にある“Client Applications”フォルダを参照してください。“Add COM Port”をクリックして、さらに Bluetooth COM ポートを追加してください。
- ② 無線範囲内のスキャナの電源を入れ、スキャナのステータス表示が**赤色と緑色に交互に点滅**(「アンインストール」状態)していることを確認してください。スキャナがアンインストール状態でない場合、最初に “Uninstall” コマンドをスキャンしてください。その後 “SPP Slave Mode” コマンドをスキャンすると、検出プロセスの間、スキャナのリンク表示が 2 秒に 3 回青色に点滅します。



Uninstall



SPP Slave Mode

- ③ リモートホスト機器の利用可能な Bluetooth 機器リストをすべて検索するためには、“Bluetooth Discovery procedure”を実行してください。スキャナが正常に検出された場合は、リストの中に “F(L/A)xxxBT-xxxx” が表示されます。
- ④ 検出された Bluetooth 機器リストから “F(L/A)xxxBT-xxxx” をダブルクリックしてください。もし、セキュリティ接続のためにパスキー(PIN コード)を要求された場合、“00000000” (デフォルト設定)と入力してください。“Serial Port on F(L/A)xxxBT-xxxx”を確認し、スキャナとリモートホスト機器の間の接続を確立するためにこれをダブルクリックしてください。
- ⑤ 接続が確立されたことを示すために、スキャナは高音のビーブ音を 4 回鳴らします。同時に、スキャナが無線接続状態にあることを示すために、スキャナのリンク表示が 2.5 秒に 1 回青色に点滅するようになります。

スキャナが“SPP Slave Mode”コマンドをスキャンした後、1 分以内にホスト機器に接続されなかった場合、スキャナは自動的にスリープ状態になりますのでご注意ください。接続を続けるには、トリガスイッチを押してスリープ状態を解除してください。



上記の手順は一般的な Windows 環境におけるものです。接続手順はリモートホスト機器、オペレーティングシステム、Bluetooth ドライバによって異なるおそれがあります。接続手順の中で何か問題が発生した場合、必要なサポートを得るために技術者に相談してください。より詳細な情報は CINO のウェブサイトを参照してください。

## 範囲外スキャンング

スキャナとリモートホスト機器の間で無線接続が確立されている場合には、スキャンされたデータは読取後、すぐに送信されます。また、無線接続が切断されている場合には、バーコードをスキャン出来ないようにあらかじめ設定されています。

範囲外スキャンング機能を有効にした場合は、スキャナが無線範囲外でもバーコードデータをスキャンし続ける事ができます。無線通信が再接続されるまで、スキャンされたデータはすべてメモリーバッファに格納されます。



範囲外スキャンを有効にする



範囲外スキャンを無効にする ◆

スキャナが無線範囲外の場合、無線接続が切断されたことを示す低音のピープ音が4回鳴り、スキャナのリンク表示が、2秒につき3回青色に点滅します。スキャナが無線範囲内に戻ると、無線が再接続されたことを示すため、高音のピープ音が4回鳴り、リンク表示は2.5秒に1回青色に点滅します。同時に、全ての格納されたスキャンデータは、再接続の後すぐに自動的に送信されます。

## プレゼンテーション スキャンング

プレゼンテーション スキャンングは、利用者の利便性を向上させるためのハンズフリー機能です。もし、プレゼンテーションモードへの自動切り替え機能を有効にすると、スキャナをスマートスタンドまたはクレードルに置いた場合に、自動的にプレゼンテーションモードに切り替わるようになります。



プレゼンテーションモードへの自動切り替えを行う



自動切り替えを行わない ◆

Note: スキャナをスマートスタンドまたはクレードルから離れた場合、スキャナはトリガモードに自動的に戻ります。常にプレゼンテーションモードになるように設定する場合には **“動作モード クイック設定”**(p.16)を参照してください。

## スリープモードと電源 OFF

スキャナは使用されないまま一定時間経過すると“スリープモード”に入り、さらにそのまま一定時間経過すると自動的に電源が切れるように設定されています。

スキャナを手動ですぐに“スリープモード”、“電源 OFF”の状態にしたい場合、“Sleep Mode”、“Power Off”のコマンドをそれぞれスキャンしてください。状態を解除してスキャナを再び使用するにはトリガスイッチを押してください。



Sleep Mode



Power Off

※一部のスキャナは“Power Off”のコマンドに対応していません。

## バッチ スキャンニング (棚卸し モード)

バッチ スキャンニング機能により、スキャナは最大 **100,000** 個の JAN-13 バーコードデータを格納することができるメモリ容量を提供します。それは、棚卸しアプリケーションにとって、理想的なコスト削減のソリューションです。

一度、“バッチスキャンニングを開始する” コマンドをスキャンしてこの機能を有効にすると、すべてのスキャンされたバーコードデータはメモリに格納されて、スキャナのステータス表示は、バッチ スキャンニングの間一定の間隔で**緑色に点滅**します。メモリがフルになるまで、バーコードデータをスキャンし、格納することができます。メモリがフルの場合は、長いビープ音を 2 回鳴らし、ステータス表示を赤色に 2 回点滅させて、**メモリがフル**であることを示します。バッチ スキャンニングを終了させるには、“バッチスキャンニングを終了する” コマンドをスキャンしてください。



バッチスキャンニングを開始する



バッチスキャンニングを終了する

## 数量機能を使用する

バッチスキャンニングモードでは、数量機能をサポートしています。数量機能を使用した場合には、数量情報とスキャンされたバーコードのデータと一緒にメモリーに格納されます。以下の数量コマンドをバーコードをスキャンしたすぐ後に読み取ることで 1 から 9999 までの数量情報を入力することができます。



Quantity 0



Quantity 3



Quantity 7



Quantity 1



Quantity 4



Quantity 8



Quantity 2



Quantity 5



Quantity 9



Quantity 6

Note:例えば数量情報で“125”と入力したい場合には、バーコードデータをスキャンした後続けて、“Quantity 1”“Quantity 2”“Quantity 5”とスキャンします。5桁以上の数字を入力しようとした場合、エラー音を発して数量情報はバーコードデータもろとも破棄され、出力されません。

格納されたバーコードデータと数量情報を出力するには、3 つの方法があります。デフォルト設定では数量情報の回数スキャンされたデータが連続で出力されます。また、スキャンされたデータと数量情報を 2 つのフィールドで、間にデリミタ(デフォルト設定では“,”)を挟む形で出力することができます。様々なアプリケーションに対応するために、デリミタと出力する順序は変更することが可能です。



数量情報の回数だけデータを出力する ◆



<数量情報><デリミタ><スキャンデータ>



<スキャンデータ><デリミタ><数量情報>

## 格納データの送信方法

スキャナに格納されたデータを送信するには、“格納データを送信する” コマンドをスキャンします。送信中、スキャナは短いクリック音を鳴らし、リンク表示が青色に点滅します。データ送信が終了すると、短いビーブ音を 2 回鳴らします。



格納データを送信する

スキャナをクレードルに置くことにより、格納データを送信するようにスキャナを設定することもできます。送信するタイミングを変更するには以下のコマンドをスキャンしてください。



送信コマンドを  
スキャンした時 ◆



コマンドをスキャンした時と、  
クレードルにスキャナを置いた時



クレードルにスキャナを  
置いた時

スキャナは、“格納データを全て消去する” コマンドをスキャンするまで、すべての格納データを保持するように、あらかじめ設定されています。その他に“格納データを送信後、自動的にデータを消去する”ように設定を変更することもできます。



格納データを送信後、  
自動的にデータを消去する



送信後も格納データを保持する ◆

## スキャンしたデータを消去する方法

間違ったバーコードをスキャンした場合、“最後にスキャンしたデータを消去する” コマンドは間違いを直すのに役立ちます。“最後にスキャンしたデータを消去する” コマンドをスキャンすると、最後にスキャンされたデータが削除されます。また、“格納データを全て消去する” コマンドをスキャンすると全てのデータが消去されます。



最後にスキャンしたデータを消去する



格納データを全て消去する

## リンク モード クイック設定



PAIR Mode



SPP Master Mode



HID Legacy Mode



UNINSTALL



HID Mode



PICO Mode



SPP Slave Mode



HID Mode with Passkey

## ホスト接続 クイック設定 (スマートクレードルのみ動作)

◆初期設定



①RS232 Serial



③PS/2 (DOS/V) KBW Standard Mode



⑤USB HID Standard Mode ◆  
(初期設定: USB 英語キーボード)



⑦USB 仮想 Com インタフェイス



②Keyboard Replacement



④PS/2 (DOS/V) KBW Turbo Mode



⑥USB HID Turbo Mode

※ 注意 ※

②～⑥を設定および“工場出荷時設定”に戻した場合 (p.16)、初期設定の英語キーボード(“USA”)に戻ります。日本語キーボードに設定する場合には、インタフェイス設定後、右のバーコードを読み取ってください。



Japan (日本語)

⑦USB 仮想 COM で利用される場合には専用のドライバが必要となります。  
下記 URL よりダウンロード下さい。

<http://www.cino.com.tw/resources/download.html>

Software: USB VCOM Driver 32 Bit (WinXP/Vista/Win7/Win8 supported)

USB VCOM Driver 64 Bit (WinXP/Vista/Win7/Win8 supported)

\*最新バージョン、ファイル名は随時変更される可能性があります。

詳しくは、弊社までお問合せ下さい。

# キーボード インタフェイス クイック設定

◆初期設定

## - サフィックス設定 -



なし



RETURN ◆



TAB



SPACE



ENTER

## - キーボードレイアウト設定 -



USA ◆



France



Germany



United Kingdom - UK



Canadian French



Spain



Latin America



Netherlands



Japan (日本語)

# シリアル インタフェイス クイック設定

◆初期設定

## - サフィックス設定 -



なし



LF



TAB



CR ◆



CRLF



SPACE

## - ボーレート設定 -



115.2K BPS



19.2K BPS



4800 BPS



57.6K BPS



9600 BPS ◆



2400 BPS



38.4K BPS



1200 BPS

## - データフレーム設定 -



8, None, 1 ◆



8, None, 2



7, None, 2



8, Odd, 1



7, Odd, 1



7, Odd, 2



8, Even, 1



7, Even, 1



7, Even, 2



8, Space, 1



7, Space, 1



7, Space, 2



8, Mark, 1



7, Mark, 1



7, Mark, 2



## システム コマンド



スリープ



システム情報



工場出荷時設定



電源 OFF



PowerTool Host Link



マスタ デフォルト

## ページング機能

ページング機能を利用するとペアリングされたスキャナ、あるいはスマートクレードルを判別することができます。スキャナからペアリングされたクレードルを探す場合にはスキャナで下記の”ページング”コマンドを読み取ります。クレードルからペアリングされたスキャナを探す場合には、クレードルのページング/リセットボタンを短く押します。すると、対象のスマートクレードルあるいはスキャナからページビープ音が鳴ります。



ページング/  
リセット ボタン



ページング

## クローン機能

PICO モードで複数のスキャナを1つのクレードルに接続している時、1つのスキャナから残りのスキャナにインタフェイス関連の設定をコピーすることができます。クローン機能を利用するには、インタフェイス関連の設定が完了したスキャナで”クローン設定保存”コマンドを読み取った後に、設定をコピーする先のスキャナで”クローン”コマンドを読み取ります。



クローン設定保存



クローン

## 動作モード クイック設定

◆初期設定



トリガ モード ◆



プレゼンテーション モード

## システム コマンド



PROGRAM: 設定開始  
(プログラミングモード開始)



END: 設定終了  
(プログラミングモード終了)

## オプション コード



0



1



2



3



4



5



6



7



8



9



A



B



C



D



E



F



FIN (Finish)











END (Exit)

# キーボード インタフェイス 設定

コマンド	パラメータ選択		オプションコード	
<b>キーボード レイアウト</b> 	米国 ◆ フランス ドイツ イギリス カナダ スペイン スウェーデン/フィンランド ポルトガル ノルウェー	ラテンアメリカ イタリア オランダ デンマーク ベルギー スイス・ドイツ アイスランド 日本 チェコ	00 01 02 03 04 05 06 07 08	09 10 11 12 13 14 15 16 17
<b>サフィックス</b> 	なし RETURN ◆ TAB SPACE	ENTER ユーザ定義文字	0 1 2 3	4 5
<b>前置文字</b> 	なし ◆ 1-15 文字		FIN [00-7F], [FIN]	
<b>後置文字</b> 	なし ◆ 1-15 文字		FIN [00-7F], [FIN]	
<b>メッセージ間ディレイ</b> 	なし ◆ 1-99 (x5) msec.		FIN (2 桁)	
<b>キャラクタ間ディレイ</b> 	なし ◆ 1-99 (x5) msec.		FIN (2 桁)	
<b>ファンクション間ディレイ</b> 	なし ◆ 1-99 (x5) msec.		FIN (2 桁)	
<b>Caps Lock 設定</b> 	"Caps Lock" オフ ◆ "Caps Lock" オン 自動検出		0 1 2	
<b>Caps Lock 解除 設定</b> 	"Caps Lock On, Caps Off" ◆ "Caps Lock On, Shift Off"		0 1	
<b>Func. Key エミュレーション</b> 	Enable ASCII 00-31 as KB function code output ◆ Enable ASCII 00-31 as Ctrl-xx output		0 1	
<b>キーパッド エミュレーション</b> 	無効 ◆ 有効、キーパッド出力として数値出力する		0 1	
<b>大文字 / 小文字</b> 	標準文字 ◆ 大文字/小文字 反転 大文字 小文字		0 1 2 3	

# シリアル インタフェイス 設定

コマンド	パラメータ選択		オプションコード	
<b>STX/ETX 設定</b> 	STX/ETX 送信 無効 ◆ STX/ETX 送信 有効		0 1	
<b>サフィックス</b> 	なし CR ◆ LF CRLF	TAB SPACE ユーザ定義文字	0 1 2 3	4 5 6
<b>前置文字</b> 	なし ◆ 1-15 文字		FIN [00-7F], [FIN]	
<b>後置文字</b> 	なし ◆ 1-15 文字		FIN [00-7F], [FIN]	
<b>ハンドシェイク プロトコル</b> 	なし ◆ RTS/CTS ACK/ NAK Xon/Xoff		0 1 2 3	
<b>メッセージ間ディレイ</b> 	なし ◆ 1-99 (x5) msec.		FIN (2 桁)	
<b>キャラクタ間ディレイ</b> 	なし ◆ 1-99 (x5) msec.		FIN (2 桁)	
<b>ファンクション間ディレイ</b> 	なし ◆ 1-99 (x5) msec.		FIN (2 桁)	
<b>シリアル応答 タイムアウト</b> 	なし 200 msec. 500 msec. ◆ 800 msec. 1 sec. 2 sec.	3 sec. 4 sec. 5 sec. 8 sec. 10 sec. 15 sec.	0 1 2 3 4 5	6 7 8 9 A B
<b>NAK リトライ カウント</b> 	3 回 ◆ 0-255 回		FIN (3 桁)	

## メッセージ文字列の内容

キーボード インタフェイスの出力(PS / 2、DOS / V、USB HID)









前置文字	データ長	Prefix ID	読取データ	Suffix ID	後置文字	サフィックス
1-15 char.	2-3 digits	1 or 3 char.	Variable	1 or 3 char.	1-15 char.	1 char.

シリアル インタフェイスの出力(RS-232、USB COM ポート エミュレーション)

STX	前置文字	データ長	Prefix ID	読取データ	Suffix ID	後置文字	ETX	サフィックス
1 char.	1-15 char.	2-3 digits	1 or 3 char.	Variable	1 or 3 char.	1-15 char.	1 char.	1 char.

# 動作および出力コントロール

◆工場出荷時のデフォルト設定

コマンド	パラメータ選択		オプションコード	
<b>読取ブザー音程</b> 	ミュート		0	
	低		1	
	中 ◆		2	
	高		3	
	最高		4	
	電源 ON ビープ音あり ◆		5	
	電源 ON ビープ音なし		6	
<b>読取ブザー音量</b> 	小		0	
	中		1	
	大		2	
<b>反転読取</b> 	無効 ◆		0	
	有効		1	
<b>冗長性</b> 	なし	Level 3	0	3
	Level 1 ◆	Level 4	1	4
	Level 2	Level 5	2	5
	誤読を防止するための設定			
<b>電源 ON 表示</b> 	無効 (LED オフ)		0	
	LED 点灯 ◆		1	
	LED 点滅		2	
<b>読取成功表示</b> 	無効		0	
	有効 ◆		1	
<b>パイプレータ</b> 	無効		0	
	有効 ◆		1	
	パイプレータ搭載モデルのみ対応			
<b>読取確認ディレイ</b> 	なし ◆	1 sec.	0	3
	200 msec.	1.5 sec.	1	4
	500 msec.	2 sec.	2	5
		3 sec.		6
<b>読取確認時間</b> 	短		0	
	中 ◆		1	
	長		2	
	最長		3	
	最短		4	

## Bluetooth 関連設定

◆工場出荷時のデフォルト設定

コマンド	パラメータ選択	オプションコード
<b>自動スリープ (無線接続時)</b> 	12 (x5) minutes ◆ 0-99 (x5) minutes 自動スリープを無効にするには「0」に設定してください	FIN (2 桁)
<b>自動スリープ (無線非接続時)</b> 	1 minute ◆ 0-99 minutes 自動スリープを無効にするには「0」に設定してください	FIN (2 桁)
<b>自動電源 OFF</b> 	1 (x5) minutes ◆ 0-99 (x5) minutes 「0」に設定するとスリープ後すぐに電源 OFF になります	FIN (2 桁)
<b>Bluetooth ID</b> 	デフォルト ID ◆ ユーザ定義 F/L シリーズは 1-16 キャラクタ、 A シリーズは 1-32 キャラクタで設定します デフォルトの ID は「F(L/A)xxxBT-xxxx」です	FIN [00-7F], FIN
<b>Bluetooth PIN コード</b> 	デフォルト PIN コード ユーザ定義 (1-8 桁の数字) デフォルトの PIN コードは「00000000」です	FIN [30-39], FIN

## プレゼンテーションモード関連設定

コマンド	パラメータ選択		オプションコード	
<b>プレゼンテーション感度</b> 	Level 1 (低) Level 2 Level 3 Level 4	Level 5 ◆ Level 6 Level 7 (高)	0 1 2 3	4 5 6
<b>光源発光時間</b> 	短 中 長 ◆ 最長		0 1 2 3	
<b>再読取ディレイ</b> 	無効 最短 ◆ 短 一度の発光で同じバーコードを再読取するまでの時間	中 長 再読取しない	0 1 2	3 4 5
<b>ハンドフリー タイムアウト</b> 	短 ◆ 中 長 最長 無効 トリガを押した際にトリガモードとして動作する時間		0 1 2 3 4	

# キーボード ファンクション コード表

No.	ANSI	ASCII	Key Function	Ctrl Output	No.	ANSI	ASCII	Key Function	Ctrl Output
00	NUL	00H	RESERVED	Ctrl + @	16	DLE	10H	F7	Ctrl + P
01	SOH	01H	CTRL (Left)	Ctrl + A	17	DC1	11H	F8	Ctrl + Q
02	STX	02H	ALT (Left)	Ctrl + B	18	DC2	12H	F9	Ctrl + R
03	ETX	03H	SHIFT	Ctrl + C	19	DC3	13H	F10	Ctrl + S
04	EOT	04H	CAPS LOCK	Ctrl + D	20	DC4	14H	F11	Ctrl + T
05	ENQ	05H	NUM LOCK	Ctrl + E	21	NAK	15H	F12	Ctrl + U
06	ACK	06H	ESC	Ctrl + F	22	SYN	16H	INS (Insert) (Edit)	Ctrl + V
07	BEL	07H	F1	Ctrl + G	23	ETB	17H	DEL (Delete) (Edit)	Ctrl + W
08	BS	08H	BACK SPACE	Ctrl + H	24	CAN	18H	HOME (Edit)	Ctrl + X
09	HT	09H	TAB	Ctrl + I	25	EM	19H	END (Edit)	Ctrl + Y
10	LF	0AH	F2	Ctrl + J	26	SUB	1AH	PAGE UP (Edit)	Ctrl + Z
11	VT	0BH	F3	Ctrl + K	27	ESC	1BH	PAGE DOWN (Edit)	Ctrl + [
12	FF	0CH	F4	Ctrl + L	28	FS	1CH	UP (Edit)	Ctrl + \
13	CR	0DH	ENTER (CR)	Ctrl + M	29	GS	1DH	DOWN (Edit)	Ctrl + ]
14	SO	0EH	F5	Ctrl + N	30	RS	1EH	LEFT (Edit)	Ctrl + 6
15	SI	0FH	F6	Ctrl + O	31	US	1FH	RIGHT (Edit)	* see note



Ctrl Output 欄の最後の文字 (No.31) は、国によって異なります。

## HEX/ASCII リファレンス表

H \ L	0	1	2	3	4	5	6	7
0	NUL	DLE	SPACE	0	@	P	`	p
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q
2	STX	DC2	"	2	B	R	b	r
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s
4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t
5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v
7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w
8	BS	CAN	(	8	H	X	h	x
9	HT	EM	)	9	I	Y	i	y
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z
B	VT	ESC	+	;	K	[	k	{
C	FF	FS	,	<	L	\	l	
D	CR	GS	-	=	M	]	m	}
E	SO	RS	.	>	N	^	n	~
F	SI	US	/	?	O	_	o	DEL

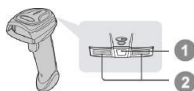
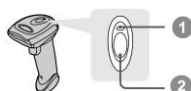


Example: ASCII "A" → HEX "41"; ASCII "a" → "61"

■ : High Byte of HEX Value □ : Low Byte of HEX Value

# LED とビーブ音の表示について

## スキャナ



① …リンク表示

② …ステータス表示

項目	リンク表示	ビーブ音
無線接続	青色が 2.5 秒に 1 回点滅	オフ
無線切断	青色が 2 秒に 3 回点滅	オフ
接続中	青色が素早く点滅	短いクリック音
無線接続完了	青色が 2.5 秒に 1 回点滅	高音のビーブ音 4 回
無線接続切断	青色が 2 秒に 3 回点滅	低音のビーブ音 4 回
データ転送	青色が素早く点滅	短いクリック音
項目	ステータス表示	ビーブ音
充電中(クレードル設置)	赤色が点灯	オフ
フル充電(クレードル設置)	緑色が点灯	オフ
バッチスキャン中	緑色が 2.5 秒に 1 回点滅	オフ
ペアリング失敗	赤色が点灯	Di-do Di-do ビーブ音が 2 回
メモリーオーバー	赤色が 2 回点滅	長いビーブ音 2 回
充電 小	赤色が一定の間隔で 1 回点滅	一定の間隔でビーブ音が 1 回
充電 極小	赤色が 8 回点滅	ビーブ音 8 回
読み取り成功	緑色が 1 回点滅	読み取り成功のビーブ音 1 回
設定中	赤色が点灯	オフ
アンインストール状態	赤色と緑色が交互に点滅	オフ
設定更新	赤色が点灯	短いクリック音
タイムアウト警告	オフ	長いビーブ音 3 回
スマートクレードルからのページ	オフ	ページビーブ音 6 回
スリープ状態 / 充電切れ	オフ	オフ
電源オフ	オフ	オフ

## バッテリー残量の表示

スキャナのバッテリー残量を調べるには以下のコマンドをスキャンしてください。  
スキャナは、LED の表示でバッテリーがどれだけ残っているか表します。

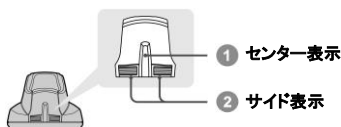


バッテリー残量の表示

LED 表示	バッテリー残量
緑色と青色に点滅	75%以上
緑色に点滅	50%以上 75%以下
橙色に点滅	25%以上 50%以下
赤色に点滅	25%以下



## クレードル



### HB211x スマートクレードル

項目		LED 表示		ビープ音
		センター	サイド	
電源オン		青色が 1 回点滅	オフ	電源オンビープ音
スマートクレードル 設定更新		オフ	赤色が点灯	短いクリック音
アンインストール状態		オフ	赤色と緑色が交互に点滅	オフ
PICO モード	無線接続	青色が点灯	緑色が点灯	オフ
	無線切断	オフ	赤色が点灯	オフ
PAIR モード	無線接続	青色が点灯	オフ	オフ
	無線切断	オフ	赤色が点灯	オフ
スキャナからの ページ	PICO モード	青色が点灯	緑色が点灯	ページビープ音 6 回
	PAIR モード	青色が点灯	オフ	ページビープ音 6 回

### HB2100 充電クレードル

項目	電源表示	ビープ音
電源オン	青色が点灯	オフ

### クレードルのリセットについて



何らかの原因により接続設定および各種設定がうまくいかず、クレードルをリセットする必要がある場合、クレードルのリセットボタンを 5 秒以上押してください。高音のビープ音が 4 回鳴り、クレードルはリセットされます。

ページング/リセット ボタン

## バーコード プログラミング メニュー

FuzzyScan をプログラミングするために、システムコマンド、ファミリーコード、そしてオプションコードがあります。

### システムコマンド

システムコマンドは、プログラミングモードの開始(“PROGRAM”)、プログラミングモードの終了(“EXIT”)、システム情報の一覧表示(“SYSLIST”)、工場出荷時の構成に戻る(“M\_DEFAULT”)など、FuzzyScan に即座に操作の実行を指示する最高レベルのバーコードコマンドです。すべてのシステムコマンドは、操作が完了するまでに数秒かかりますので、ご注意ください。別のバーコードをスキャンする場合は、完了のピープ音を待つ必要があります。

### ファミリーコード

ファミリーコードは、希望するプログラミングファミリーを選択するのにスキャンされます。FuzzyScan は、特定の要件を満たすために、あらかじめ 100 以上のプログラミングファミリーを提供しています。

### オプションコード

オプションコードは、“0 ~ 9”、“A ~ F”、そして終了(“FIN”)で表されるバーコードコマンドのセットです。ほとんどの設定は、選択したプログラミングファミリーのための必要なパラメータを設定するために、ファミリーコードの選択後に少なくとも 1 つのオプションコードを選択する必要があります。

## プログラミングの手順

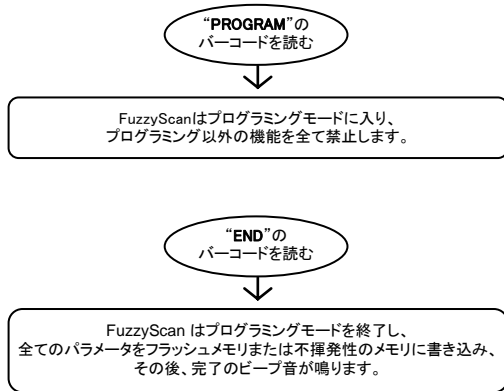
設定されたパラメータは、FuzzyScan の内部フラッシュメモリ ASIC、または非揮発性メモリに格納されています。ユニットの電源をオフにした場合でも、フラッシュメモリ ASIC、または非揮発性メモリにパラメータが保持されますので、次の電源投入時に再プログラムする必要はありません。


FuzzyScan のプログラミング手順は、設定を簡単にするために可能な限りシンプルに設計されています。ほとんどのプログラミングファミリーは、**シングルスキャン選択**のプログラミング方法を取ります。しかし、いくつかのプログラミングファミリーは、より複雑かつ柔軟なプログラム可能なオプションがあり、ユーザはプログラミング手順を完了するために、**マルチスキャン選択**を行う必要があります。各種のプログラミングの手順は、以下のページに記載されています。

### プログラミングメニューの項目について

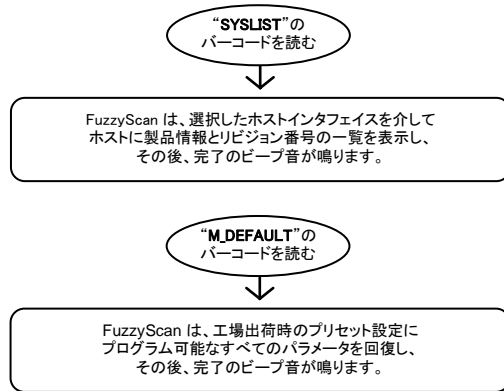
項目	説明
◆	工場出荷時設定 (初期設定値)
P.C.	プログラミング カテゴリ (種別) SS : シングルスキャン選択 (Single scan selection) MS : マルチスキャン選択 (Multiple scan selection)
( )	必須オプションコード
[ ]	選択オプションコード

## スキャナの設定開始と設定終了方法



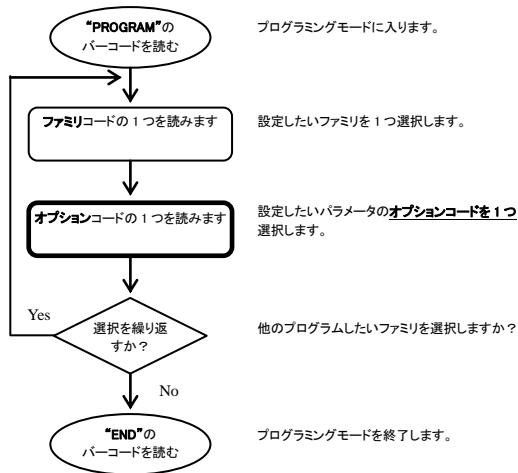
 ユーザーが“END”をスキャンした後、FuzzyScan は内部フラッシュメモリ ASIC、または非揮発性メモリ内にパラメータを格納するのに3~4 秒かかりますのでご注意ください。完了のビーブ音が鳴る前に、**電源をオフ**にしないでください。すべての構成パラメータを破壊する恐れがあります。

## システム リスト、グループ & マスタデフォルト

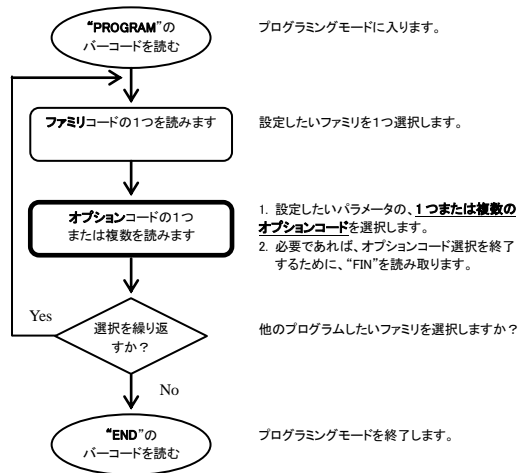


# スキャナ設定手順

## シングルスキャン選択(SS)の場合



## マルチスキャン選択(MS)の場合



# 設定例

## シングルスキャン選択(SS)の場合

＜Code39 スタート/ストップキャラクタを送信する＞

※初期設定は送信しません。



① PROGRAM(プログラミングモード開始)



② Code39 ファミリ設定



③ 6 (オプションコード)

パラメータ選択よりオプションコードとして“6”に設定しますと、  
Code39 のスタート/ストップキャラクタを送信する設定となります。



④ END(プログラミングモード終了)

## マルチスキャン選択(MS)の場合

＜Code128 最小読取桁数を設定する＞

※初期設定は 1 桁



① PROGRAM(プログラミングモード開始)



② Code128 最小桁数設定



③ 8 (オプションコード)

1 から 99 桁まで設定することができます。8 桁に設定します。



④ FIN(Finish: 終了)



⑤ END(プログラミングモード終了)



プログラム開始

## シンボル読取設定

◆ Code 39/Code 32 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>Code 39 ファミリー設定</b>   オプションコード[4][7][8]は省略。 詳しくは、「Programming Manual」を ご参照ください。	SS	Code 39 読取の無効	0
	SS	Code 39 読取の有効 ◆	1
	SS	Standard Code 39 を主要フォーマットとして選択 ◆	2
	SS	Full ASCII Code 39 を主要フォーマットとして選択	3
	SS	スタート/ストップコードを出力しない ◆	5
	SS	スタート/ストップコードを出力する	6
	SS	MOD 43 チェックデジットの照合を無効 ◆	9
	SS	MOD 43 チェックデジットの照合を有効	A
	SS	チェックデジットを出力しない ◆	B
	SS	チェックデジットを出力する	C
	SS	Code 39 のパッファリング (結合読取) を無効 ◆	D
	SS	Code 39 のパッファリング (結合読取) を有効	E
<b>Code 39 最小桁数設定</b> 	SS	初期値 (01) ◆	FIN (2 桁)
	MS	01～最大桁  オプションコードから 2 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	
<b>Code 39 最大桁数設定</b> 	SS	初期値 (98) ◆	FIN (2 桁)
	MS	98～最小桁  オプションコードから 2 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	

\* 「Trioptic Code 39」と「Code 39 Full ASCII」は、同時に有効にすることはできません。（「Trioptic Code 39」の設定については「Programming Manual」を参照してください。）



プログラム開始

## シンボル読取設定

◆ Code 39/Code 32 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>Code 39 セキュリティレベル</b> 	SS SS SS SS	レベル 0 レベル 1 レベル 2 ◆ レベル 3	0 1 2 3

### •Code 39 セキュリティレベル

スキャナは、Code39 バーコードに 4 つのレベルのデコードセキュリティを提供しています。

レベル 0: レベル 1 において、バーコードの印刷不良や深刻な規格外による誤読が発生している場合、レベル 0 を選択してください。

レベル 1: レベル 2 において、バーコードの印刷不良や規格外による誤読が発生している場合、レベル 1 を選択してください。

レベル 2: スキャナが最も速く読取りができるデフォルト設定です。"規格内の"Code 39 バーコードの読取に十分なセキュリティを提供します。

レベル 3: レベル 2 において、バーコードの印刷不良や規格外によって読取が失敗した場合、レベル 3 を選択してください。これは、最もアグレッシブな設定のため、誤読を高める可能性があります。



プログラム開始

## シンボル読取設定

◆ Codabar/NW-7 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>Codabar 設定</b> 	SS	Codabar の読取を無効	0
	SS	Codabar の読取を有効 ◆	1
	SS	Codabar standard format の読取を選択 ◆	2
	SS	Codabar ABC format の読取を選択	3
	SS	Codabar CLSI format の読取を選択	4
	SS	Codabar CX format の読取を選択	5
	SS	スタート/ストップコードを出力しない ◆	6
	SS	スタート/ストップコードを ABCD/ABCD の形で出力する	7
	SS	スタート/ストップコードを abcd/abcd の形で出力する	8
	SS	スタート/ストップコードを ABCD/TN*E の形で出力する	9
	SS	スタート/ストップコードを abcd/tn*e の形で出力する	A
	SS	チェックデジットの照合を無効 ◆	B
	SS	チェックデジットの照合を有効	C
	SS	チェックデジットを出力しない ◆	D
	SS	チェックデジットを出力する	E
<b>Codabar チェックデジット設定</b> 	SS	Modulus 16 を使用 ◆	0
	SS	Modulus 10/ weight 3 を使用	1
	SS	Modulus 11 を使用	2
	SS	Modulus 10/ weight 2 を使用	3
	SS	7 check DR を使用	4
	SS	Weight Modulus 11 を使用	5
	SS	Runes (Modulus 10/ weight 2) を使用	6





プログラム開始

## シンボル読取設定

◆ Codabar/NW-7 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>Codabar 最小桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (04) ◆ 01～最大桁  オプションコードから2桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (2 digits)
<b>Codabar 最大桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (98) ◆ 98～最小桁  オプションコードから2桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (2 digits)




プログラム開始

## シンボル読取設定 ◆ UPC-A & UPC-E 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>UPC ファミリ設定</b> 	SS	UPC-A の読取を無効	0
	SS	UPC-A の読取を有効 ◆	1
	SS	UPC-E の読取を無効	2
	SS	UPC-E の読取を有効 ◆	3
	SS	UPC-E expansion の読取を無効 ◆	4
	SS	UPC-E expansion の読取を有効	5
	SS	UPC standardization の読取を無効 ◆	6
	SS	UPC standardization の読取を有効	7
	SS	UPC numeric system の読取を無効	8
	SS	UPC numeric system の読取を有効 ◆	9
	SS	UPC-A のチェックデジットを出力しない	A
	SS	UPC-A のチェックデジットを出力する ◆	B
	SS	UPC-E のチェックデジットを出力しない	C
	SS	UPC-E のチェックデジットを出力する ◆	D
	SS	UPC "leading 1" portion の読取を無効 ◆	E
	SS	UPC "leading 1" portion の読取を有効	F

- UPC-E expansion を有効にすると、UPC-E の読取りデータは、UPC-A フォーマットに変換され、UPC standardization、UPC numeric system、UPC-A check digit transmission のような関連する設定に影響を与えます。
- **UPC-E & EAN-8 Expansion** : 8 桁の UPC-E を 12 桁の UPC-A に、8 桁の EAN-8 を 13 桁の EAN-13 に拡張します。
- **UPC-A Standardization** : 12 桁の UPC-A を 1 つゼロを挿入した 13 桁の EAN-13 に拡張します。
- **UPC Lead 1 Numeric System** : UPC leading with the 1 numeric system の読み取りを行うためには、このオプションを有効にする必要があります。  
有効にすると先頭が\*1"の場合に UPC として認識し、無効にすると UPC として認めません。

WPC Selection (UPC/EAN/CAN)	Basic Length	Disable Check Digit	Disable Numeric System	With 2-digit Addendum	With 5-digit Addendum	Enable Standardization	Enable Expansion
UPC-A	12	- 1	- 1	+ 2	+ 5	+ 1	0
UPC-E	8	- 1	- 1	+ 2	+ 5	+ 1	+ 4
EAN-13	13	- 1	NC	+ 2	+ 5	NC	0
EAN-8	8	- 1	NC	+ 2	+ 5	NC	+ 5





プログラム開始

## シンボル読取設定 ◆ UPC-A & UPC-E 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>UPC サプリメント設定</b> 	SS	サプリメントなしの UPC を読取る ◆	0
	SS	2 桁のサプリメント付きの UPC のみを読取る	1
	SS	5 桁のサプリメント付きの UPC のみを読取る	2
	SS	2 桁または 5 桁のサプリメント付きの UPC を読取る	3
	SS	サプリメントなしでも読取る ◆	4
	SS	サプリメント付きのみ読取る	5
	SS	UPC Family Addenda Separator を使用しない ◆	6
	SS	UPC Family Addenda Separator を使用する	7
<b>UPC/EAN セキュリティレベル</b> 	SS	レベル 0	0
	SS	レベル 1 ◆	1
	SS	レベル 2	2
		UPC-A と EAN-13 のみ使用可能	

### ・UPC/EAN セキュリティレベル

スキャナは、UPC/EAN バーコードに 3 つのレベルのデコードセキュリティを提供しています。

レベル 0: レベル 1 において、バーコードの印刷不良や規格外によって、特に 1、2、7 そして 8 文字の時に誤読が発生している場合、レベル 0 を選択してください。

このセキュリティレベルの選択は大幅にスキャナのデコード能力を損なうおそれがあります。

レベル 1: スキャナが最も早く読取りができるデフォルト設定です。"規格内の"UPC/EAN バーコードの読取に十分なセキュリティを提供します。

レベル 2: レベル 1 において、バーコードの印刷不良や汚れ、損傷による誤読が発生している場合、レベル 2 を選択してください。これは、最もアグレッシブな設定のため、誤読を高める可能性があります。




プログラム開始

## シンボル読取設定 ◆ UPC-A & UPC-E 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>Supplement Scan Voting</b> 	SS	なし	0
	SS	レベル 1	1
	SS	レベル 2	2
	SS	レベル 3 ◆	3
	SS	レベル 4	4
	SS	レベル 5	5
	SS	レベル 6	6
	SS	レベル 7	7
	SS	レベル 8	8
	SS	レベル 9	9
	SS	レベル 10	A
	SS	レベル 11	B
	SS	レベル 12	C
	SS	レベル 13	D

・**Supplement Scan Voting** とは、送信される前に同じ2桁または5桁のサブリメント付き UPC/EAN が読み取られた回数です。これは、サブリメント付きとサブリメントなしの UPC/EAN が混在している場合の読み取りに便利です。この機能は、2 桁のサブリメント付き UPC/EAN、5 桁のサブリメント付き UPC/EAN、2 桁または 5 桁のサブリメント付き UPC/EAN を選択した場合にのみ有効です。デフォルト設定は、レベル 3 です。より高いレベルを選択すると、印刷不良、低コントラストや損傷のあるバーコードラベルの読取速度に影響を与える可能性があります。





プログラム開始

## シンボル読取設定

### ◆ EAN 設定, EANサブリメント設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>EAN 設定</b> 	SS	EAN-13 の読取を無効	0
	SS	EAN-13 の読取を有効 ◆	1
	SS	EAN-8 の読取を無効	2
	SS	EAN-8 の読取を有効 ◆	3
	SS	EAN-8 expansion の読取を無効 ◆	4
	SS	EAN-8 expansion の読取を有効	5
	SS	EAN-13 のチェックデジットを出力しない	6
	SS	EAN-13 のチェックデジットを出力する ◆	7
	SS	EAN-8 のチェックデジットを出力しない	8
	SS	EAN-8 のチェックデジットを出力する ◆	9
	SS	ISBN/ISSN に変換しない ◆	A
	SS	ISBN/ISSN に変換する	B
<b>EAN サブリメント設定</b> 	SS	サブリメントなしの EAN を読取る ◆	0
	SS	2 桁のサブリメント付きの EAN のみを読取る	1
	SS	5 桁のサブリメント付きの EAN のみを読取る	2
	SS	2 桁または 5 桁のサブリメント付きの EAN を読取る	3
	SS	サブリメントなしでも読取る ◆	4
	SS	サブリメント付きのみを読取る	5
	SS	EAN Addenda Separator を使用しない ◆	6
	SS	EAN Addenda Separator を使用する	7




プログラム開始

# シンボル読取設定

## ◆ EAN 設定, EAN サプリメント設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>Supplement Scan Voting</b> 	SS	なし	0
	SS	レベル 1	1
	SS	レベル 2	2
	SS	レベル 3 ◆	3
	SS	レベル 4	4
	SS	レベル 5	5
	SS	レベル 6	6
	SS	レベル 7	7
	SS	レベル 8	8
	SS	レベル 9	9
	SS	レベル 10	A
	SS	レベル 11	B
	SS	レベル 12	C
	SS	レベル 13	D

・**Supplement Scan Voting** とは、送信される前に同じ2桁または5桁のサプリメント付き UPC/EAN が読み取られた回数です。これは、サプリメント付きとサプリメントなしの UPC/EAN が混在している場合の読み取りに便利です。この機能は、2 桁のサプリメント付き UPC/EAN、5 桁のサプリメント付き UPC/EAN、2 桁または 5 桁のサプリメント付き UPC/EAN を選択した場合にのみ有効です。デフォルト設定は、レベル 3 です。より高いレベルを選択すると、印刷不良、低コントラストや損傷のあるバーコードラベルの読取速度に影響を与える可能性があります。



プログラム開始

## シンボル読取設定

### ◆ EAN 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
UPC/EAN セキュリティレベル 	SS	レベル 0	0
	SS	レベル 1 ◆	1
	SS	レベル 2	2
		UPC-A と EAN-13 のみ使用可能	
EAN サプリメント コントロール 	SS	なし ◆	0
	SS	全てのサプリメントを読取る	1
	SS	先頭が "491" のサプリメントを読取る	2
	SS	先頭が "978 / 979" のサプリメントを読取る	3
	SS	先頭が "977" のサプリメントを読取る	4
	SS	先頭が "378 / 379" のサプリメントを読取る	5
	SS	先頭が "414 / 419" のサプリメントを読取る	6
	SS	先頭が "434 / 439" のサプリメントを読取る	7

#### ・UPC/EAN セキュリティレベル

スキャナは、UPC/EAN バーコードに 3 つのレベルのデコードセキュリティを提供しています。

レベル 0: レベル 1 において、バーコードの印刷不良や規格外によって、特に 1、2、7、そして 8 文字の時に誤読が発生している場合、レベル 0 を選択してください。このセキュリティレベルの選択は大幅にスキャナのデコード能力を損なうおそれがあります。

レベル 1: スキャナが最も速く読取りができるデフォルト設定です。"規格内の"UPC/EAN バーコードの読取に十分なセキュリティを提供します。

レベル 2: レベル 1 において、印刷不良や汚れ、損傷による誤読が発生している場合、レベル 2 を選択してください。この設定は誤読の可能性を高めるおそれがあります。

#### ・EAN サプリメント コントロール

2 桁、5 桁、2 桁または 5 桁のサプリメント付き EAN を選択し、「先頭が "491" のサプリメントを読取る」を有効にした場合、スキャナは "491" で始まる 2 桁、5 桁、2 桁または 5 桁のサプリメント付き EAN を送信します。サプリメントなしの EAN の場合は、**送信されません**。

2 桁、5 桁、2 桁または 5 桁のサプリメント付き EAN を選択し、「先頭が "491" 以外のサプリメントを読取る」を有効にした場合、スキャナは特定の先頭で始まる 2 桁、5 桁、2 桁または 5 桁のサプリメント付き EAN を送信します。サプリメントなしの EAN の場合は、送信されます。







プログラム開始

## シンボル読取設定

### ◆ IATA & Interleaved 2 of 5 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>IATA 設定</b> 	SS	IATA の読取を無効 ◆	0
	SS	IATA の読取を有効	1
	SS	15 桁固定長の IATA を読取る ◆	2
	SS	可変長の IATA を読取る	3
	SS	チェックデジットを照合しない ◆	4
	SS	自動的にチェックデジットの照合を行う	5
	SS	S/N のみの照合を行う	6
	SS	CPN のみの照合のみ行う	7
	SS	CPN, Airline および S/N の照合を行う	8
	SS	チェックデジットを出力しない ◆	9
	SS	チェックデジットを出力する	A
	SS	スタート/ストップコードを出力しない ◆	B
	SS	スタート/ストップコードを出力する	C
<b>Interleaved 2 of 5 設定</b> 	SS	Interleaved 2 of 5 の読取を無効	0
	SS	Interleaved 2 of 5 の読取を有効 ◆	1
	SS	Interleaved 2 of 5 を主要フォーマットとする ◆	2
	SS	German Postal Code を主要フォーマットとする	3
	SS	チェックデジットを使用しない ◆	4
	SS	USS チェックデジットを照合	5
	SS	OPCC チェックデジットを照合	6
	SS	チェックデジットを出力しない ◆	7
	SS	チェックデジットを出力する	8



プログラム開始

## シンボル読取設定

### ◆ Code 128 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>Code 128 設定</b> 	SS SS SS SS	Code 128 の読取を無効 Code 128 の読取を有効 ◆ ISBT 連結を使用しない ◆ ISBT 連結を使用する	0 1 2 3
<b>Code 128 最小桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (01) ◆ 01～最大桁  オプションコードから 2 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (2 digits)
<b>Code 128 最大桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (98) ◆ 98～最小桁  オプションコードから 2 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (2 digits)
<b>Code 128 セキュリティレベル</b> 	SS SS	レベル 0 レベル 1 ◆	0 1

#### •Code 128セキュリティレベル

スキャナは、Code128バーコードに2つのレベルのデコードセキュリティを提供しています。

レベル0: レベル1において、バーコードの印刷不良や規格外による誤読が発生している場合。レベル0を選択してください。

レベル1: スキャナが最も早く読取りができるデフォルト設定です。\*規格内の\*Code 128バーコードの読取に十分なセキュリティを提供します。



プログラム開始

## シンボル読取設定

### ◆ GS1-128 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>GS1-128 設定</b> 	SS SS	GS1-128 の読取を無効 GS1-128 の読取を有効 ◆	0 1
<b>GS1-128 最小桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (01) ◆ 01～最大桁  オプションコードから 2 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (2 digits)
<b>GS1-128 最大桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (98) ◆ 98～最小桁  オプションコードから 2 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (2 digits)






プログラム開始

## シンボル読取設定

### ◆ GS1 DataBar 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>GS1 DataBar 設定</b> 	SS	GS1 DataBar (RSS-14)の読取を無効	0
	SS	GS1 DataBar (RSS-14)の読取を有効 ◆	1
	SS	GS1 DataBar Limited の読取を無効	2
	SS	GS1 DataBar Limited の読取を有効 ◆	3
	SS	GS1 DataBar Expanded の読取を無効	4
	SS	GS1 DataBar Expanded の読取を有効 ◆	5
<b>GS1 DataBar 最小桁数設定</b> 	SS	初期値 (04) ◆	<b>FIN</b> (2 digits)
	MS	01～最大桁  GS1 Databar <b>Expanded</b> のみ使用可能。 オプションコードから2桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	
<b>GS1 DataBar 最大桁数設定</b> 	SS	初期値 (74) ◆	<b>FIN</b> (2 digits)
	MS	74～最小桁  GS1 Databar <b>Expanded</b> のみ使用可能。 オプションコードから2桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	






プログラム開始

## シンボル読取設定

### ◆ Composite Codes, Codablock F PDF417/MicroPDF417 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>Composite Codes 設定</b> 	SS SS SS SS	Composite Code の読取を無効 ◆ Composite Code の読取を有効 UPC Composite Mode: UPC never linked UPC Composite Mode: UPC always linked  UPC Composite Mode: UPC never linked を選択した場合、UPC コードは MicroPDF417 を認識しているかどうかに関係なく出力されます。 UPC Composite Mode: UPC always linked を選択した場合、UPC コードは MicroPDF417 を認識した時に出力されます。	0 1 2 3
<b>Codablock F 設定</b> 	SS SS	無効 ◆ 有効	0 1
<b>PDF417/Micro PDF417 設定</b> 	SS SS SS SS	PDF417 の読取を無効 PDF417 の読取を有効 ◆ MicroPDF417 の読取を無効 ◆ MicroPDF417 の読取を有効	0 1 2 3






プログラム開始

## シンボル読取設定

### ◆ QR Code 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>QR Code 設定</b> 	SS SS	QR Code の読取を無効 QR Code の読取を有効 ◆ MicroQR Code の読取を無効 MicroQR Code の読取を有効 ◆ 連結 QR Code の読取を無効 連結 QR Code の読取を有効 ◆ QR Code の反転読取を無効 ◆ QR Code の反転読取を有効 自動的に反転読取を行う	0 1 2 3 4 5 6 7 8
<b>QR Code 最小桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (01) ◆ 01～最大桁  オプションコードから 4 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (4 digits)
<b>QR Code 最大桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (7089) ◆ 7089～最小桁  オプションコードから 4 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (4 digits)





プログラム開始

## シンボル読取設定 ◆ Data Matrix 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>Data Matrix 設定</b> 	SS SS SS SS SS SS SS SS	Data Matrix の読取を無効 Data Matrix の読取を有効 ◆ Data Matrix の反転読取を無効 Data Matrix の反転読取を有効 自動的に反転読取を行う ◆ Data Matrix の左右反転読取を無効 Data Matrix の左右反転読取を有効 自動的に反転読取を行う ◆	0 1 4 5 6 7 8 9
<b>Data Matrix 最小桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (01) ◆ 01～最大桁  オプションコードから 4 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (4 digits)
<b>Data Matrix 最大桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (3116) ◆ 3116～最小桁  オプションコードから 4 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (4 digits)



プログラム開始

## シンボル読取設定

### ◆ MaxiCode 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>MaxiCode 設定</b> 	SS SS	MaxiCode の読取を無効 ◆ MaxiCode の読取を有効	0 1
<b>MaxiCode 最小桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (01) ◆ 01～最大桁  オプションコードから 3 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (3 digits)
<b>MaxiCode 最大桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (150) ◆ 150～最小桁  オプションコードから 3 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (3 digits)





プログラム開始

## シンボル読取設定

### ◆ Aztec Code 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
<b>Aztec Code 設定</b> 	SS SS	Aztec Code の読取を無効 Aztec Code の読取を有効 ◆	0 1
<b>Aztec Code 最小桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (01) ◆ 01～最大桁  オプションコードから 4 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (4 digits)
<b>Aztec Code 最大桁数設定</b> 	SS MS	初期値 (3832) ◆ 3832～最小桁  オプションコードから 4 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (4 digits)




プログラム開始

# シンボル読取設定 ◆ 郵便カスタマーバーコード 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
郵便カスタマーバーコード 設定 	SS	郵便カスタマーバーコードの読取を無効 ◆	0
	SS	郵便カスタマーバーコードの読取を有効	1

## スキャナとソフトウェアキーボードの並行入力

スキャナをスマートフォン/タブレットに接続している時、スキャナからの入力とソフトウェアキーボードによる入力を並行して行うことができます。

スキャナとスマートフォン/タブレットを接続したままの状態でもソフトウェアキーボードを利用したい場合にはまず、お使いのスマートフォン/タブレットに合わせて、“通常接続”あるいは“iOS 接続”を設定してください。

その後“キーボード表示の切替”コマンドをスキャンすると、スマートフォン/タブレットの画面上にソフトウェアキーボードが表示されます。ソフトウェアキーボードによる入力を終了する場合は再び“キーボード表示の切替”コマンドをスキャンします。



通常接続 ◆



iOS 接続



キーボード表示の切替

## 設定のリセット

“工場出荷時設定”コマンドをスキャンすると、スキャナの全ての設定が工場出荷時のデフォルト設定にリセットされます。この時、無線リンクモードの設定(p.4)も同時にリセットされますので、再びスキャナを使用する際には無線リンクモードを再設定してください。

“マスタ デフォルト”コマンドをスキャンすると、スキャナの設定が工場出荷時のデフォルト設定にリセットされますが、無線リンクモードの設定など、一部の設定は保持されたままになります。保持される設定については以下の通りです。

- ・無線リンクモード、ホスト接続の設定 (p.4, p.13 参照)
- ・インタフェイス設定 (p.14-15, p.18-19 参照)
- \*STX/ETX 設定、サフィックス、前置文字、後置文字を除く

ユーザ デフォルトの設定を利用すると、ユーザ任意の設定をデフォルト設定として保存することができます。“ユーザ デフォルトの保存”コマンドをスキャンすると、現在のスキャナの設定がユーザ デフォルトとしてスキャナ内部に保存されます。その後、“ユーザ デフォルト”コマンドをスキャンすると、スキャナの設定が保存されたユーザ デフォルト設定にリセットされます。保存されたユーザ デフォルトは、“ユーザ デフォルトの保存”コマンドをスキャンすると上書きされます。



工場出荷時設定



マスタ デフォルト



ユーザ デフォルトの保存



ユーザ デフォルト

**FuzzyScan Family**  
**クイックスタートガイド**  
- Bluetooth Version -

2016 年 8 月 29 日 第 4 刷発行

発行 株式会社アイテックス  
〒111-0041  
東京都台東区元浅草1-6-13  
元浅草MNビル6階

URL: <http://www.j-itecs.co.jp/>

落丁・乱丁は、お取り替えいたします。